学内研究組織成果報告（2023 年度）

冷戦体制下における中国対外金融の展開と変容：バーター貿易と外為資金管理を中心に

The Transition of Foreign Exchange and Foreign Trade Control in China under the Cold War：Barter Trade and Overseas Remittance

門　闖（MEN Chuang）

近年における地政学的リスクや緊張の高まりにより、冷戦期における東アジア地域の経済発展と対外経済関係に関する研究が注目されている。本研究は 1950 年代における冷戦対立構造の変容に着目し、今日に至る中国経済の対外的側面に即して経済システムの構造的特徴と対外リンケージとの関連性から中国経済の長期的特質を明らかにすることを目的としている。2023 年度では、これまでの冷戦史研究で見落とされていた中国開発戦略の転換を中心に、1950 年代後半における中国工業化戦略の転向によって生じた発展様式の変容と対外関係の変化を考察することで、研究課題の解明を試みた。

第一に本研究が行ったのは、分析の視野をアジアに広げ中国経済をどう位置づけるかという試みである。近年の地政学的変化のもとで緊迫化する国際情勢を踏まえ、ソ連モデルに倣い社会主義体制を確立した中国の発展様式とアメリカ援助を利用して展開した東アジアの輸出志向型工業化の違いを意識しながら冷戦期における中国経済の工業化戦略の転向を考察した。工業、食糧、財政、金融などの分野を検証した結果、発展経路の分岐は冷戦期という特殊な環境がもたらした一時的な現象であることが明らかであった。米中関係の改善を契機に、中国経済はアジア地域との関係が再び活発化し、外資の進出を利用して東アジア生産ネットワークと言われる国境を越えた生産工程における分業関係が構築された。こうした大きな変化をもたらした前提条件の一つは、中央集権的な重工業化戦略が 1950 年代末に破綻し、地方分権的な工業発展戦略へとシフトした中国経済の構造的特徴にあると考えられる。これによって冷戦を契機として中国経済とアジア各地の経済との構造的つながりが顕在化した。

第二に、1950 年代後半における中国重工業開発戦略の転向によって生じた中国財政金融システムの地域管理について、地域金融機関の経営実態に即して検討を重ねた。計画経済の導入とモノバンク体制の確立により、冷戦下の中国は金融統制を行っていた。しかし、発展様式の変容に伴い、集権的な資金管理から分権的な資金配分へとシフトすることが余儀なくされた。その結果、1960 年代半ばから地域の金融機関が誕生し、民間金融機関を維持するための損失補填が行われた。これらのことを明らかにした研究成果は共著（『冷戦期東アジアの経済発展』）および学会報告論文（アジア政経学会春季大会・政治経済学・経済史学会秋季学術大会）として発表されている。